

國學院大學學術情報リポジトリ

〔報告1〕 初等教育学科FD報告：
育てたい教員像から人間開発学を再検討する：
令和元年度 國學院大學人間開発学会第十一回大会
シンポジウム報告：「人間開発」の再検討：
その原点と将来を見据えて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邊, 雅俊 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001405

〔報告一〕

初等教育学科FD報告

——育てたい教員像から人間開発学を再検討する——

國學院大學人間開発学部初等教育学科教授 渡邊 雅俊

初等教育学科における議論の方向性

今年度の人間開発学会のシンポジウムは「人間開発」の再検討―その原点と将来を見据えて―ということとで、初等教育学科においてこれまで議論してきたこと、そして、それに対する考察を含めて報告をさせていただきたいと思っています。

初等教育学科のFDですが、これからお話しさせていただく内容を一つのテーマとしてまとめるとすると、「育てたい教員

像から人間開発学を再検討する」というような内容になるうかと思っています。

さて、初等教育学科は、人間開発学部の中でも比較的まとまりのある、分かり易い学科ではないかと思っています。それはすなわち、人間開発学部の中でも教師

教育、「教員養成」というものを軸にして運営されている学科、専門性を追求している学科、教育を行っている学科ということなのだと思います。

私たちは十周年を迎え、これから十一年目に向かって進んでいくわけですが、ここで改めて、われわれが育てたい教員像とは何なのだろうか、それを、初等教育学科の学科性の強み、建学の精神の中の「主体性を保持した寛容性と謙虚さ」というものを踏まえながら見直し、そして、教員像を次のように反映していくという作業を進めようと計画しました。

一つ目は「初年次教育の構成」です。今年度から、一年前期に「導入基礎演習」、夏休みに「野外活動実習」、後期に「専門基礎演習」という、一年間を通しての初年次教育のカリキュラムを開始しました。その中に当然、私たちが育てていきたい教員像、それを教員間でシェアして、初年次教育の中に反映させていきたいということがわれわれの目標としてあります。

二つ目が「内外への発信」をどうしていくかということです。これは後ほど、また詳しくご紹介していきますが、どうしても教員養成という性格上、教職課程という縛りがありますので、



あまり目立った、映えるような変更・修正というのはなかなか難しいところがあります。しかしその中で、どうやって外に、他の教員養成とは違った特色を示していくのかということを考えていくということです。

三つ目は、これは「三ポリへの反映」ということで、われわれ人間開発学部初等教育学科が公にしています三ポリシー（卒業認定・学位授与方針「ディプロマ・ポリシー」、教育課程の編成・授与方針「カリキュラム・ポリシー」、入学者受入れ方針「アドミッション・ポリシー」）の中に育てたい教員像を反映させていくかということを考えていきたい。

そして最後の四つ目に「人間開発学部の目標」、人間開発学部として、或いは「人間開発学」として、われわれが育てたい教員像をこの中にどう位置付けていくかということを考えていきたいと教員の討論の中で考えたところです。

現在発信されている初等教育学科の育てたい教員像

われわれが育てたい教員像というのが、どのように外に発信されているかということです。現行の本学部ウェブサイトやガイドブックに示されている育てたい教員像は、「伝統文化や言語・古典等を含む幅広い知識を吸収して、子どもの教育に必要な高い教育力・指導力を養います。同時に、体験型授業を通して教育現場への理解を深め、子どもたちの能力を引き出す人間力を身に付けます。この両輪により、理論と実践を兼ね備えた教育者を育成します」というのが、本学科が外に、公式に示している教員像なのだろうと思います。この中でポイントに

なっているのが、「伝統文化や言語・古典などを含む幅広い知識」、「体験型授業を通して教育現場への理解」、そして「理論と実践を兼ね備えた教育者」、恐らくこのあたりが、われわれが特色として示しているものであらうと思います。

首都圏の私大教員養成の教員像、例えば、東洋大学とか明治学院大学とか玉川大学と比べても、本学は現行のものでも大学のイメージと学科のカリキュラムをバランスよく反映した教員像を十分示しているのではないかと考えております。従って、修正するとかではなく、現存の教員像に何か新しい特色を議論しながら追加して、さらに初等教育学科の魅力を高めていきたいというのが、われわれのFDの目標になっています。

初等教育学科学生の強みをどう伸ばすか

さて、私たち教員の共通認識として、初等教育学科の学生をどう見ているか、強みはどこなところがあるかというところに着目してみたいと思います。つまり本学科の学生たちの良さとか得意とか長所という部分です。強みはたくさんあるとおっしゃる先生が殆どで、本当に嬉しいなと思ったのですが、例えば、それは協調性だったり、規範順守であったり、寛容であるとか、子どもが好き、感受性豊か、素直、弱い子どもの理解が促されているとか、本学科の学生に対して、本学科の教員が良いと思っているところは本当にたくさんあります。

私たちとしては、こういった良さというものをさらに伸ばしていく、それを発信していく方法はないだろうかということを検討しました。

一つは「人間開発学」とは何かを学術的に深める必要性があるだろう。また、カリキュラム、学部活性化事業、初年次教育、ゼミ、そして学生を伸ばすことのできる「人づくりのプロ」のスタッフの存在などを一層アピールしよう。もちろんスタッフというのは、私たち学科の専任教員のみならず、学部附置の教育実践総合センター所属の先生方を含めています。

さらに、教育現場で活躍する先輩という存在のアピールということで、ここは十一年目を迎えた現在ならではの部分だと思うのですが、本学科を卒業した教員が三十歳ぐらいになってきて、現場でも中堅と言われるようになって、学校の中心で中心的な役割を果たし、われわれのもとにもその活躍が聞こえてくるような卒業生というのがいてたいへん嬉しく思っているところなのですが、そういった卒業生をもっとアピールして、われわれの教育が充実していることを訴えようという意見もありました。

初等教育学科の育てたい教員像における新しい特色

その上で、初等教育学科の教員像における新しい特色とは何だろうという議論になってきます。初等教育学科としてもまだ十分煮詰まっていない部分があつて、やや散漫になった部分もあるのですが、われわれが育てたい教員像における新しい特色として何を考えていかなければいけないか。これから現場に出る学生たちに身に付けていってほしいもの、身に付けていかなければならないものを特色として打ち出して、それに応じた教育内容というのを揃えていくということが、外に発信する上で

は重要ではないかというふうに思ったわけです。

その一つが、「新しい時代に求められる資質・能力を指導できる」というものです。初等教育学科学生の殆どは小学校や特別支援学校などの教員として出ていくわけなのですが、そういった現場で、どんな力を子どもに与えていくのか、そして、育てていくのか、という「力」とか「能力」の部分というのは、時代に応じて変わっていくもの、もちろん、変わらないものもたくさんあるのですが、どうしても変わっていくものに目が向き易いわけです。われわれは、古くから伝統的に引き継がれている、変わらない大切なものも、ちゃんと育てていかなければいけないと思っていますが、一方で、新しい時代に応じた新しい資質・能力というものを育てていける教員を育てる専門機関でありたいというふうに思っています。

そして二つ目、ここが難しいところになってくるかと思うのですが、「複雑・多様化した教育課題を解決できる」教員を初等教育学科では育てていきたい。「複雑・多様化した教育課題」というのは、非常に漠然と聞こえるかもしれませんが、これは、インクルーシブ教育時代を迎えて、障害のある子が通常学級の中に当たり前にいる状況になってきている。そして、もう一つは多文化、外国籍の子どもに対する対応であるとか、あるいは貧困の問題であるとか、とにかく教室にはたくさん、いろんな背景を抱えた子どもたちがいて、そして、その子どもたちの中にあるような教育的なニーズ、課題を抱えている子どもがいるわけです。そういった子どもたちがいる教室で、複雑・多様化した教育課題を解決できる先生、教員を、初等教育学科では育てていきたいというふうに思っているところです。

そのためには、初等教育学科の学生の協調性と対話力を活かしながら、かつ、先ほども言いましたが、われわれの苦しいところで、教職課程認定という縛りの、枠組みの中で、見せ方をどう工夫していくかという問題もあります。

新しい教育課題に対応できる科目の充実

こういった二点を踏まえながら、では、もう少し踏み込んで何をしようかというところまで初等教育学科では話が進んできます。ただ、ここで話すのは少し勇み足の部分もありますので、今すぐやろうとしているわけではないということを御承知おきいただきながら聞いていただきたいと思います。

新しい教育課題に対応できる教員というのを、うちの学生の良さを踏まえ、あまり科目をいじらないという制限の中でどうやってやっていこうかといったときに、一クラス概ね二十名程度の「教職専門演習（仮称）」を開設できたらいいのではないかと考えています。これは何もないところから始めるというわけではなくて、実はすでに初等教育学科の専門教育科目の中に、「ICT授業構成論」が開講されています。学生の評価も非常に高いものがありまして、ぜひ、こういった形での授業を見習い、育てたい教員像の新しい特色としていきたいと少し妄想しているところがあります。

「ICT授業構成論」は開講済みですが、その他に例えば、「新しい」というところで言うところ、プログラミング学習であるとか、アクティブラーニングであるとか、特別支援教育、スクールカウンセリングといった、多様化に対する対応を学ぶ演習等を設

置していけないか、と考えているところです。

今のところ、こういう一つのスキーマを示せる程度ではあるのですが、このような枠を作っておきながら、できれば、ここ四、五年の間に実現化に向けて、着実に計画を進めていきたいと考えております。

こういうことをしたときに具体的にどんな成果があるか、ということなのですが、次のように考えています。

現行の育てたい教員像、先ほどお話しさせていただきました伝統文化や言語・古典というところなのですが、伝統文化や言語・古典というのは國學院という大学の特色に根差したもので、ここは別に何か加えようというわけではありません。このような現行の育てたい教員像の中にある「体験型授業を通して教育現場への理解」を深めるといふ部分を活かし、具体的には、体験型授業とともに「新しい教育課題における専門性を習得する演習」というものを加えることによって、本学における初等教育学科での教員養成というのは、時代のニーズに応じて、しかも、少人数で実践的に丁寧な学習ができますということを外にアピールできるのではないかとというふうに考えております。

人間開発学の再考

要するに、初等教育学科としては、「人を育てるプロを育てる」という「人間開発学」の理念に対して、われわれは教員養成という学科の特色がありますので、先ほどお示した通り、①「新しい時代に求められる資質・能力を指導できる」、②「複雑・多様化した教育課程を解決できる」教員を養成するという目標

のもと、「教職専門演習（仮称）」の開講を検討しているということを御報告させていただきたいと思います。

そして最後に、このシンポジウムに対する私たち初等教育学科の一つの答えとして、「人間開発学」を再考する時期にあつて、初等教育学科という学科の位置付け、そして、われわれが追求すべき専門性について二つほどまとめたいと思います。

一つ目としては、私たちの学科の特色は教員養成にありますので、「新しい教育課題の解決に寄与する理論と方法の探求」ということ。こういった授業を展開し、そして、それを担当する教員たちは当然やっていかなければならないのですが、そういう形で人間開発学に貢献していきたい。

二つ目として、「人間開発の基礎理論としての教育学の探求」ということ。これは、「人間開発」の土台をなすものは「教育」である。われわれには、土台の一つとして「教育」というものがありますが、「教育」に対してはいろんなアプローチがあると思うのですが、基礎である以上は、そこに科学的な分析が入るべきだというふうに考えております。ですから、「教育学」という言葉を使っているのですが、そういった視点から「人間開発学」というものの蓄積に寄与していきたいというふうに考えているところです。

